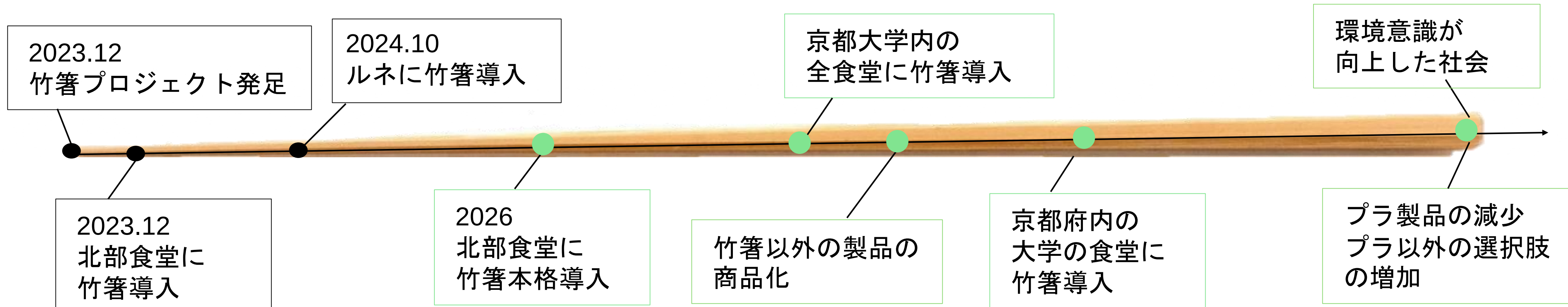


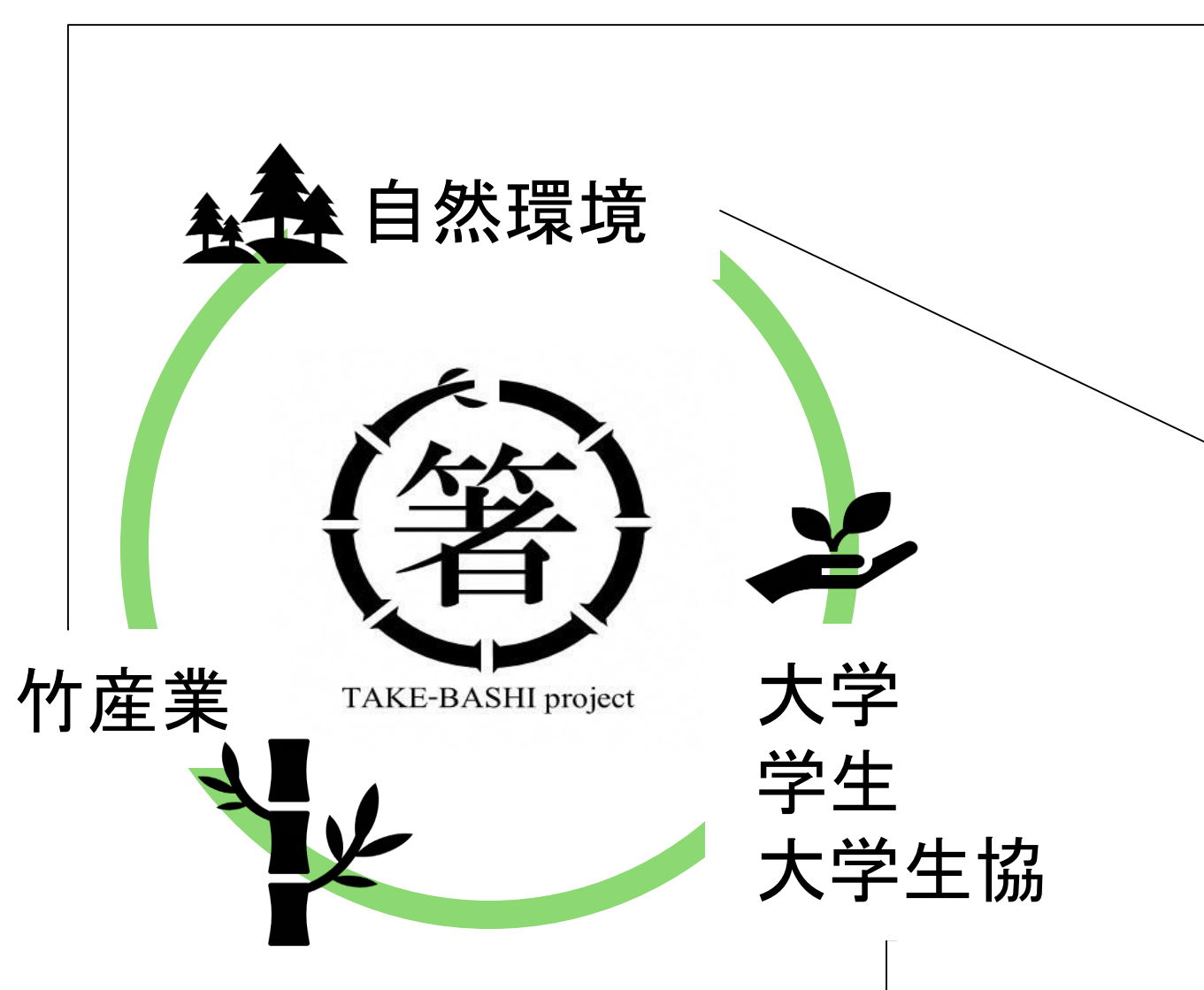
お箸からはじめる食堂の脱プラスチック

京都大学 竹箸プロジェクト（指導責任者：京都大学農学研究科森林科学専攻 檀浦 正子）

プロジェクト概要



活動理由



放置竹林の有効利用

生活習慣の変化による竹の需要量減少＋安価なプラスチックの急速な普及
放置竹林は生物多様性の低下や景観の劣化など環境問題の原因となる。

プラスチック問題解決

プラスチック製品の洗浄や廃棄によって生じる「マイクロプラスチック」が海洋や陸域で増加しており、人の体内でも発見されている。プラスチック製品の使用自体を減らしていく必要がある。

大学という場の利用

様々な考え方の学生に広く働きかける。口に触れるものを変えることで感覚的にも訴える。
学術的な視点で検証（竹箸の衛生検査や利用者へのアンケート調査を実施）

食堂での洗浄・乾燥オペレーションの確立

乾燥方法

①広げて自然乾燥

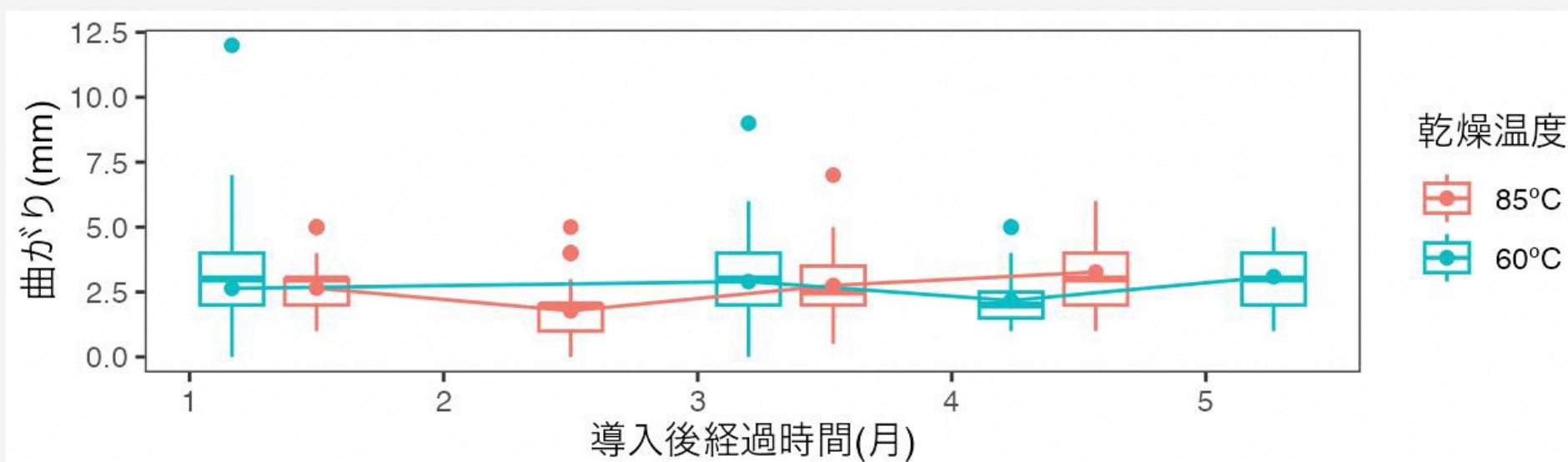
- 2023年度に4ヶ月ほど実施
- 曲がり・衛生は問題ないものの、かなり手間がかかる
→乾燥機での乾燥を検討

②家庭用食器乾燥機(60℃)での乾燥

- 2024年度に食堂Aで実施

③食堂の既存の乾燥機(85℃)での乾燥

- 2024年度に食堂Bで実施

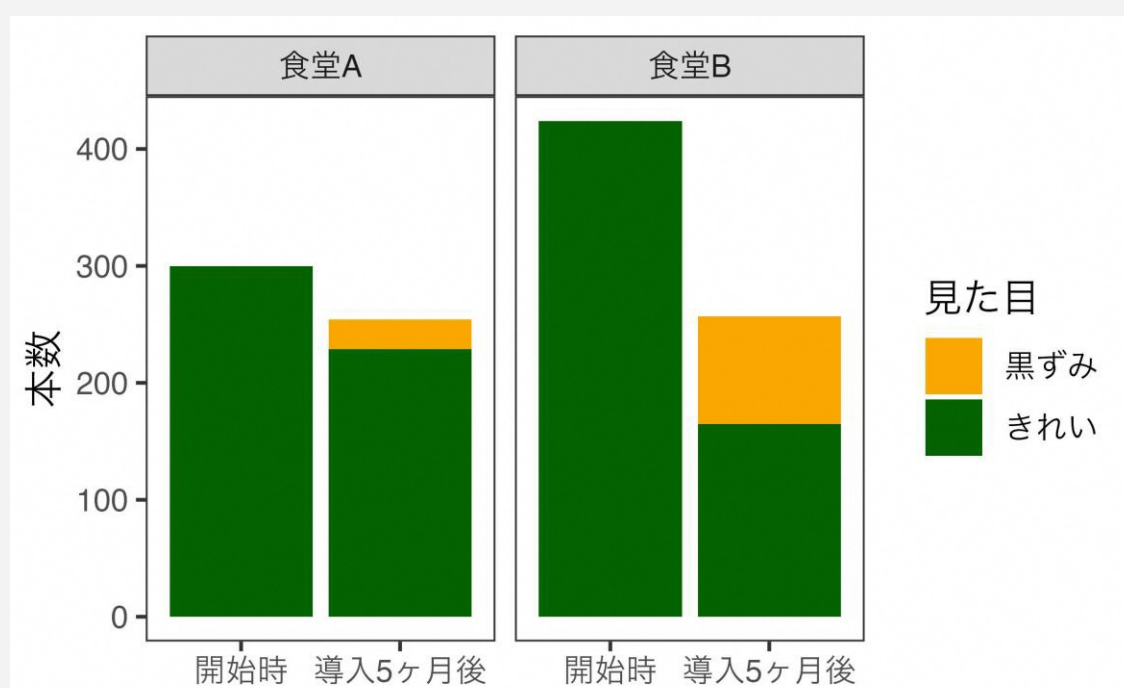


結果

- 乾燥温度・導入後経過時間に依らず、曲がり2.5mm程度で推移
→乾燥方法による曲がりの問題は小さい
→乾燥温度の導入ハードルは低い

衛生面での劣化・損耗

- 汚損・盗難・紛失などによってかなり減った
- カビの発生
- 食堂による損耗数に違いはない
- 食堂Bの方が黒ずみ
→将来的にカビに繋がる可能性



竹箸とプラスチック箸の比較

仮定

- 竹箸: 470円/膳 プラスチック箸: 100円/膳
- プラスチック箸の買替割合: 約83% (竹箸はより長く使える仮定)
→10年後に積算費用が同じになるには、
買い替え本数は導入本数の **1割** に抑える必要がある

課題

- 他大学への普及
 - 他の食堂の情報調査
- 交換の頻度を調査
 - 曲がり・劣化など竹箸の変化が大きい
 - カビの発生→竹箸の全交換
- 食堂による損耗の違い
 - 同じオペレーションでも食堂によって結果に大きな違い
→つけ置き時間、洗浄方法などの統一が必要
 - 竹箸の損耗・交換の主な原因は乾燥による曲がりよりも衛生状態
→問題の重要度 乾燥<衛生面
 - 現状: 食堂Aの衛生減耗割合は1割に近いが、紛失など衛生以外の理由での損耗が見られるため、紛失・損耗合わせて1割に抑えなければならない

大学外に向けての広報活動

学祭や地域のマーケットに出店

- 竹製品の展示・販売を行った。
- 学外の方々にも環境問題や本プロジェクトについて知っていただく
- マイ竹箸を持つきっかけに
- 竹材に詳しい方や自然環境に関心のある方からご意見をいただくことも



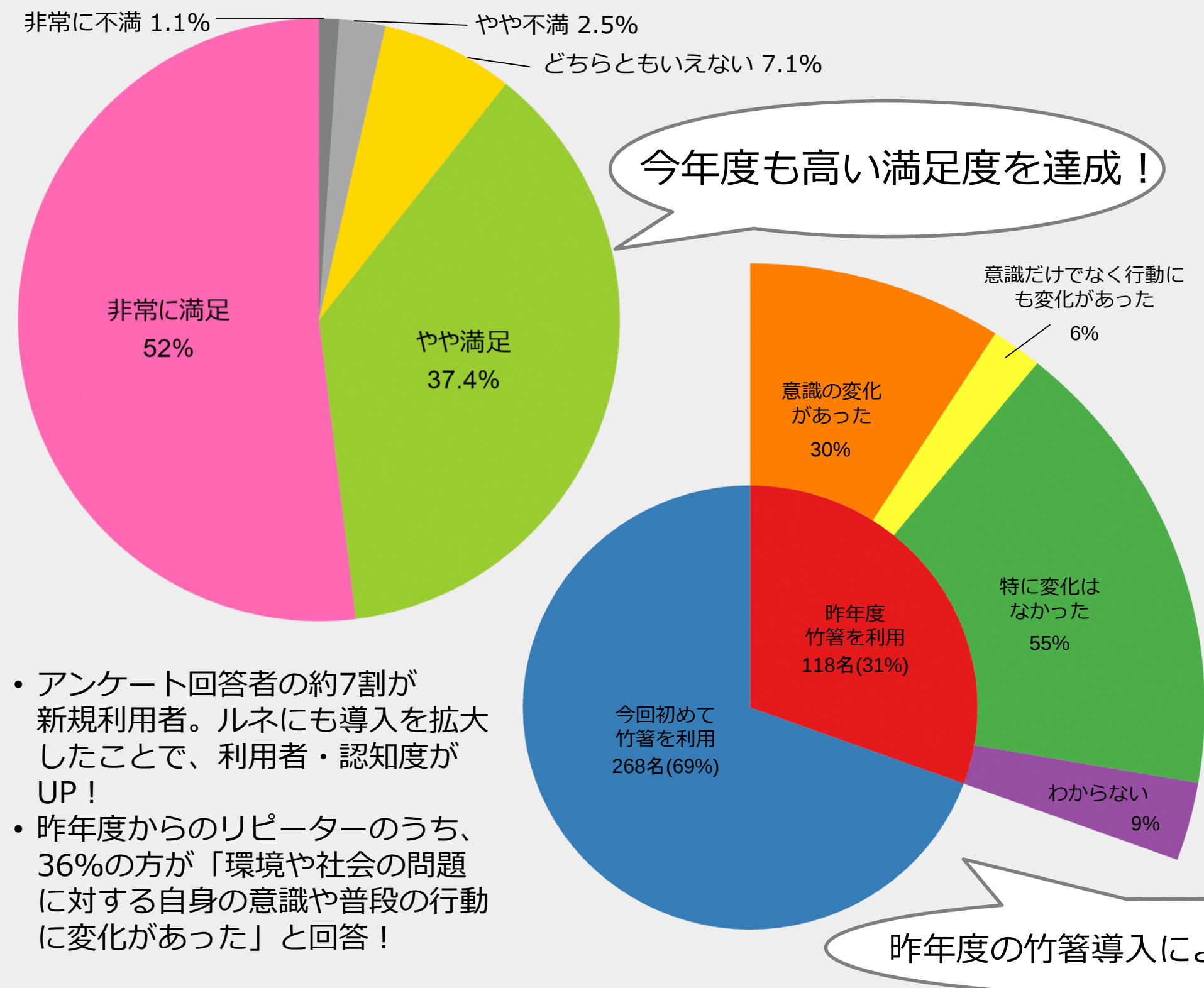
京エコロジーセンターの展示とイベント

- 全9枚のポスター展示で、背景にある問題と活動内容を詳細に解説
- イベント「あなたのお箸は何製ですか?～学食から始める脱プラスチック～」を開催。専門家による講演と参加者の質問をもとにパネルディスカッション

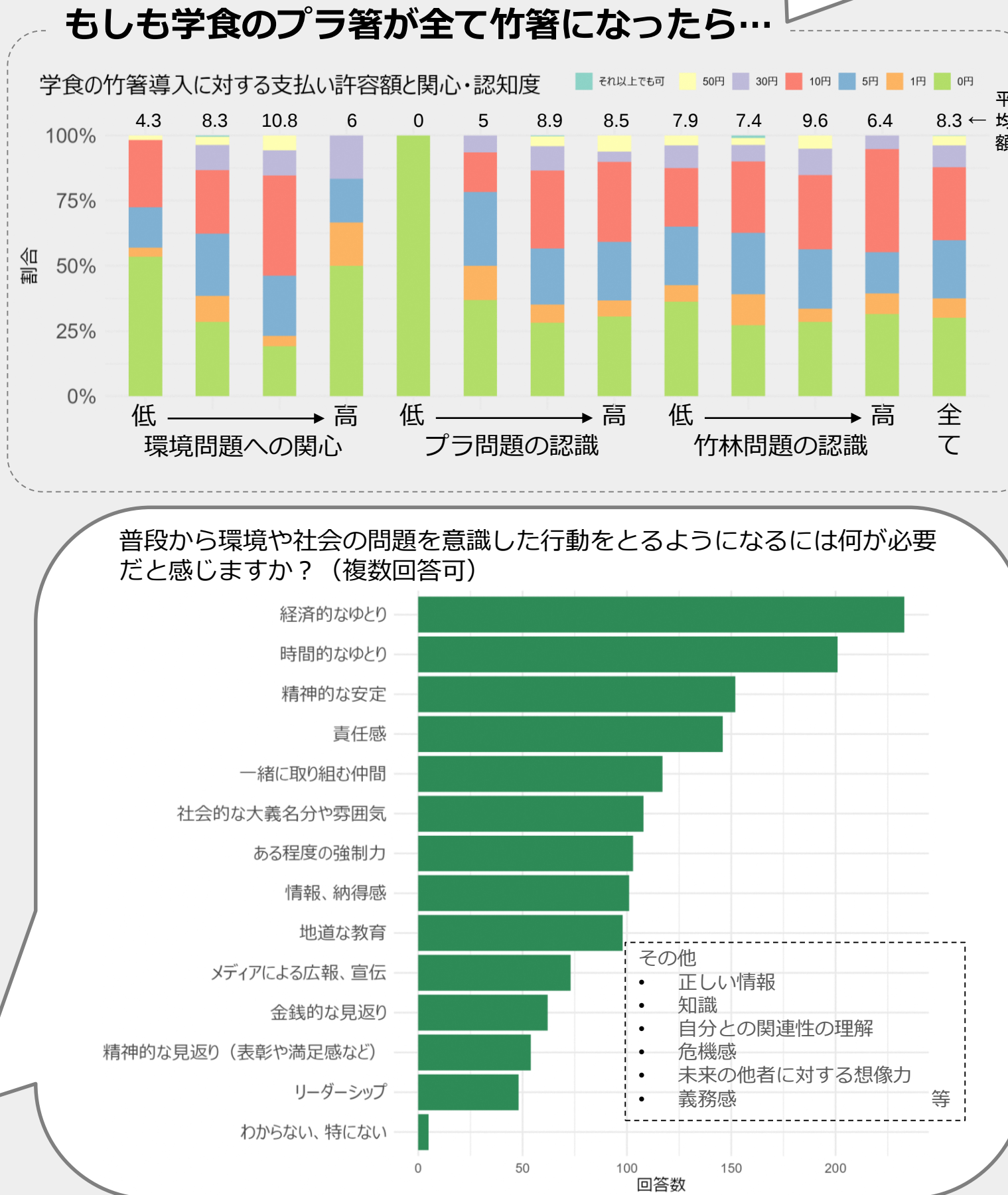
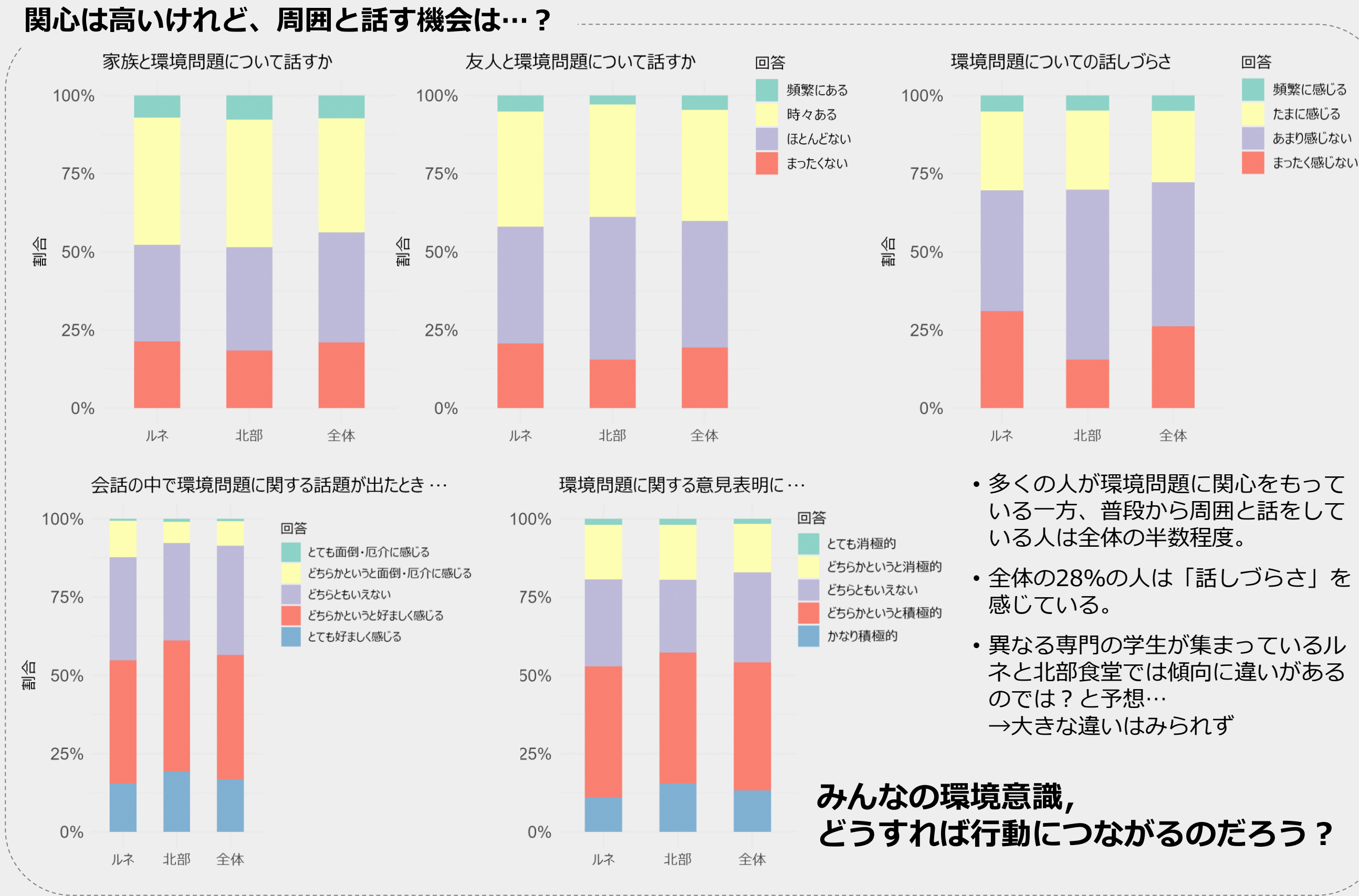
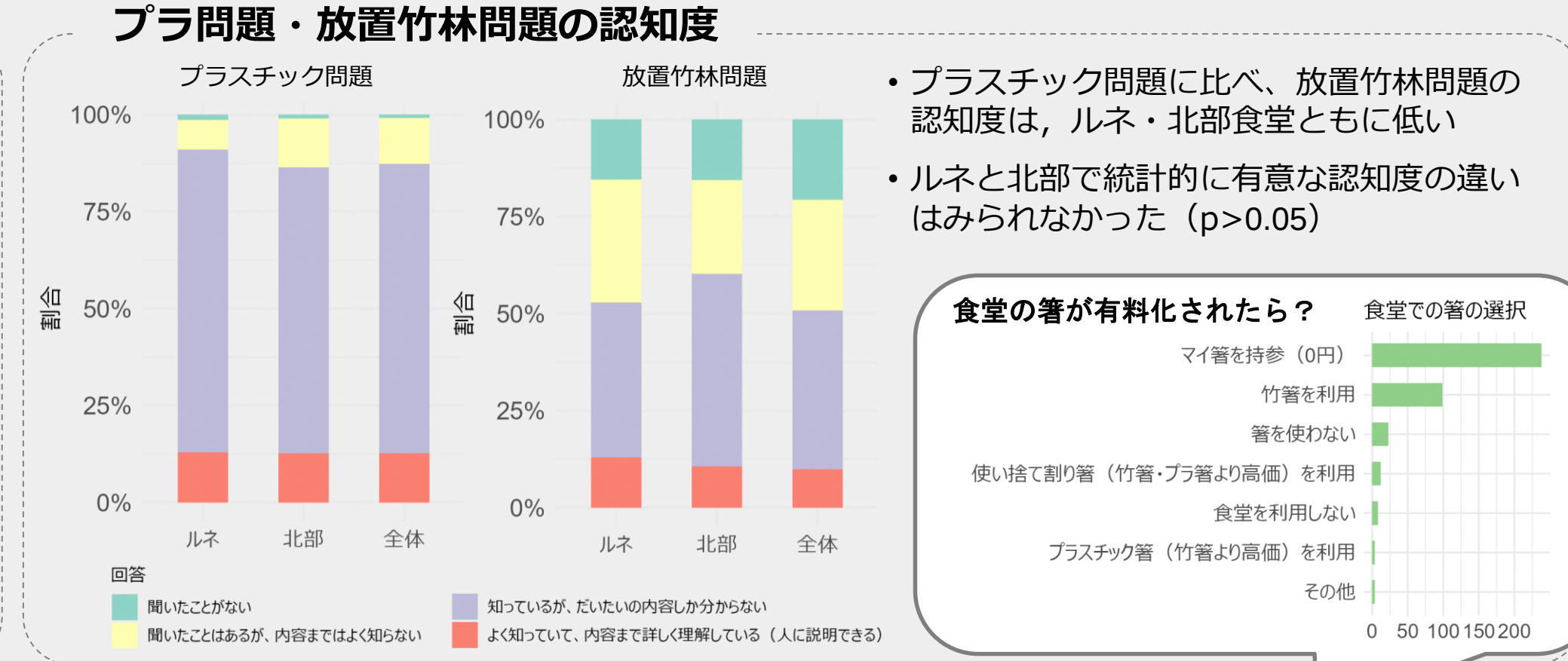
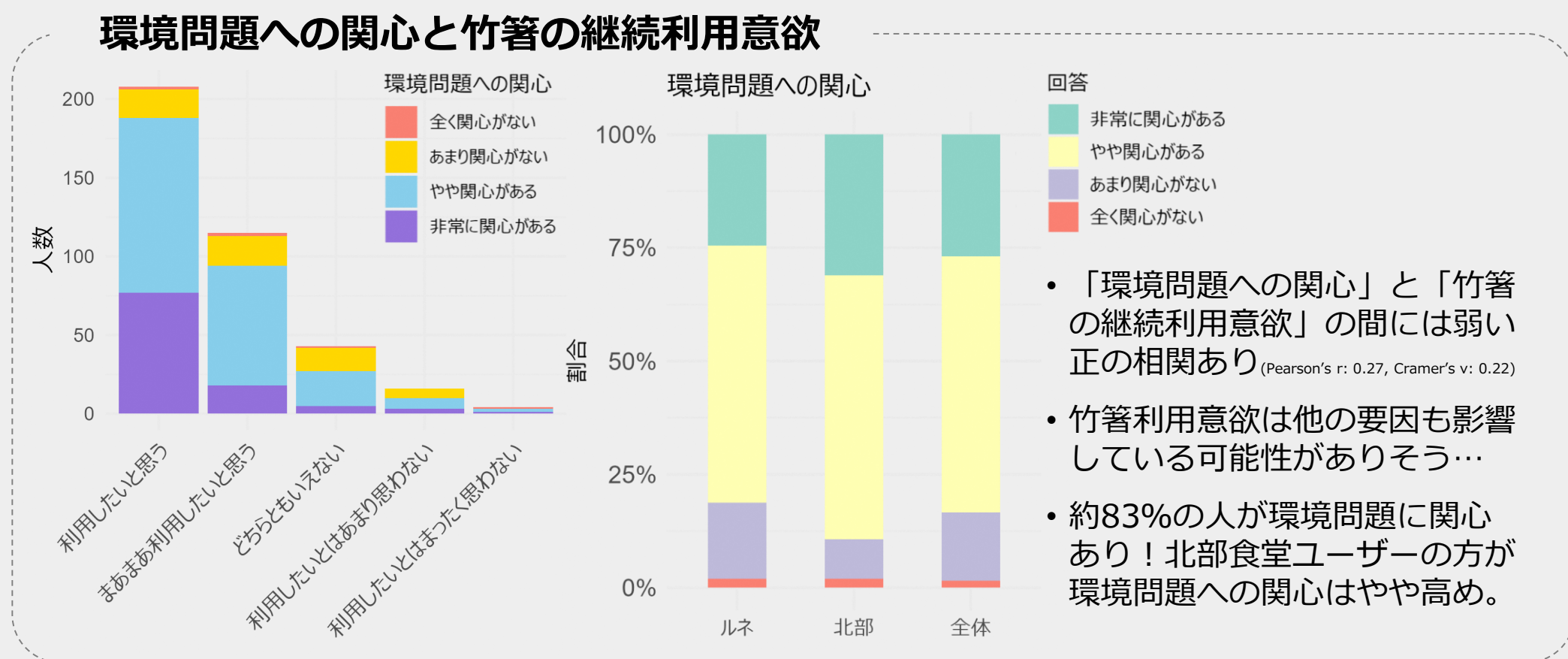
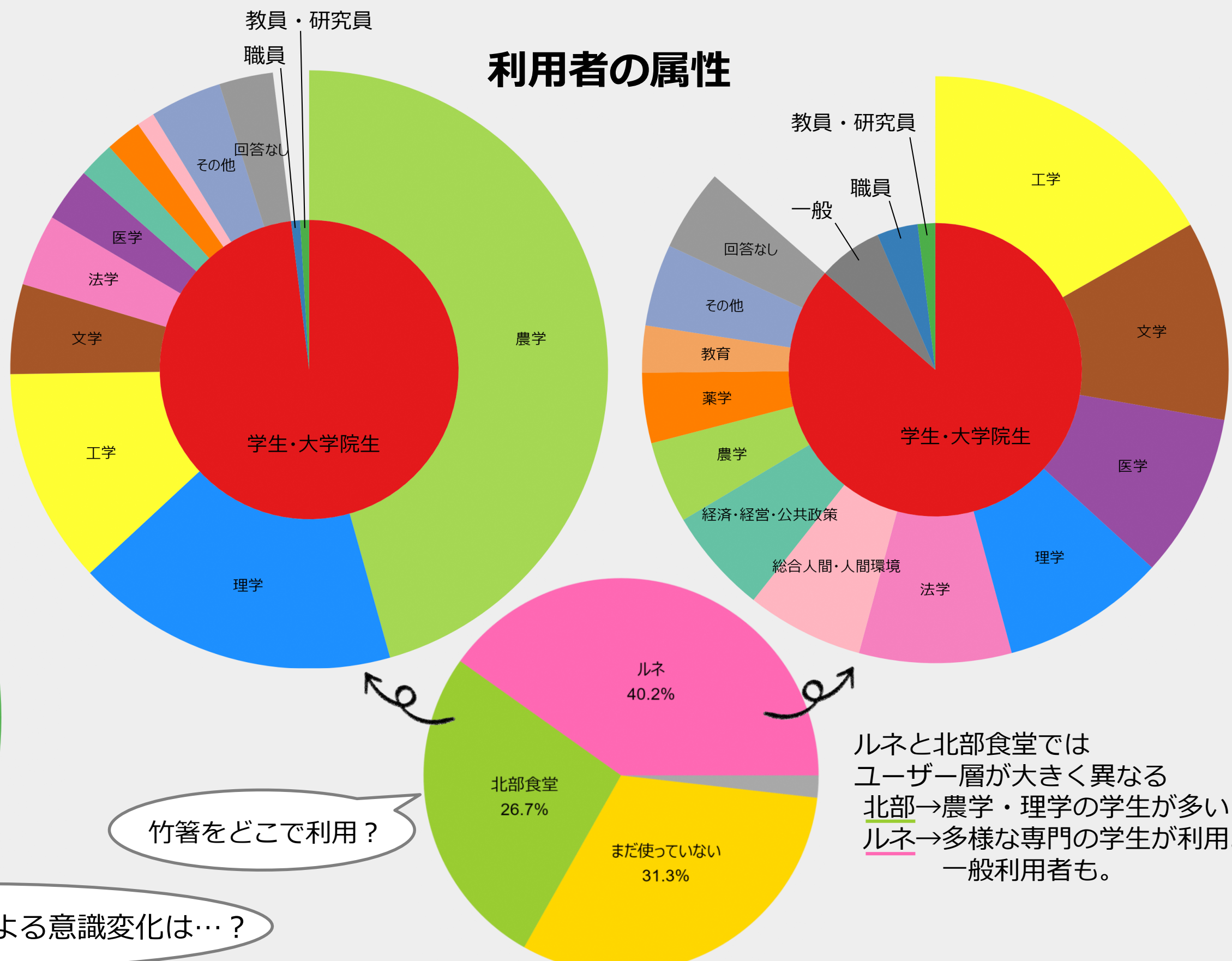


アンケート結果

期間：2024/10/15～2025/1/31 回答数：455（日本語410＋英語45）
分析対象：日本語回答のうち、初回回答のみ（n=386）



- アンケート回答者の約7割が新規利用者。ルネにも導入を拡大したことで、利用者・認知度がUP！
- 昨年度からのリピーターのうち、36%の方が「環境や社会の問題に対する自身の意識や普段の行動に変化があった」と回答！



来年度の展望

- ★ 竹箸の試験運用
 - 検証ポイント①：梅雨など湿度の高い時期の衛生面
 - 検証ポイント②：箸の耐久性(1年でどれくらい劣化した?)
 - 将来的により多くの施設で竹箸を普及していくためにオペレーションを確立させる！
 - 竹箸を導入するコストの検証
- ★ 学生の環境意識を高めていくための取り組み
 - ①生協・購買における環境配慮製品の取り扱いを増やす
 - ②環境問題・環境配慮活動の周知
 - プラスチック・使い捨てに関する意識の向上を目指す！
- ★ 広報活動をより活発に
 - 環境に興味のある人だけでなく、より多くの人を巻き込み環境問題を周知できる場づくりを目指す